

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20704	
事業名	放置自転車対策・駐輪場維持関係費						
評価担当課	所属名	建)総務部 道路管理課					
	課長名	久米田 真人	担当者名	中居優人・中村洋介	電話番号	011-211-2456	
施策名	主	多様な活動を支える環境に優しい交通体系の確立					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	自転車の乗り入れが多い都心部や地下鉄・JR駅周辺では、その一部が道路に放置され、歩行者の通行の妨げとなっていることから、放置自転車を減らし安全・安心な歩行空間を確保する。				
		長期	放置自転車を減らし、歩行者の安全安心な歩行環境を実現し、良好な景観を保つことで、まちの魅力向上に寄与する。				
	取組内容	放置自転車を抑制し安全安心な歩行環境を確保するため、道路や駐輪場内の放置自転車の撤去・保管・返還、自転車誘導整理を行う。また、駐輪場活用を促すため、札幌駅周辺自転車等駐輪場管理(指定管理)、地下鉄・JR駅の駐輪場清掃や修繕等の維持管理を行う。					
	実施結果	放置禁止区域の自転車撤去3,000台 都心部自転車誘導整理500,510台・都心部における自転車への啓発札貼付け5,465枚 指定管理者制度を活用し札幌駅周辺自転車等駐輪場(収容台数4,910台)を運営 手稲駅北口、北24条幌北団地、北6西1駐輪場や、北6東2、北1東15自転車保管場所などの修繕を行った。 市内全293箇所の駐輪場にて清掃を行った。					
事業実施における工夫点	R4、4の大通周辺の放置禁止区域拡大や駐輪場の有料化に向けて、必要な準備や条例改正、関係機関・団体との調整等を行った。						
対象者	都心部や地下鉄・JR駅周辺の歩行者や自転車利用者			開始	0年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律 札幌市自転車等の放置の防止に関する条例 札幌市自転車等駐輪場条例 等						
他都市の状況	他都市においても放置禁止区域の指定や放置自転車等の撤去を行い、安全・安心な歩行空間の確保に努めている。(放置自転車撤去は調査対象909中628市区町村で実施。令和3年度国土交通省調査)						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	314,205	354,714	325,814	371,783	
うち特定財源	9,718	18,586	20,638	12,266	
人工	4.5	4.5	4.5	4.5	
人件費	32,400	32,400	32,400	32,400	
計(事業費+人件費)	346,605	387,114	358,214	404,183	
事業費の内訳	令和3年度決算	1光熱水費等:8,756千円、2除雪:47,204千円、3借地料:4,980千円、4誘導整理:129,427千円、5撤去:53,680千円、6北1西1地下駐輪場内整理:5,830千円、7指定管理:14,798千円、8備品:8,462千円、9修繕:2,875千円、10その他維持管理:49,802千円			
	令和4年度予算	1光熱水費等:9,600千円、2除雪:32,000千円、3借地料:4,930千円、4誘導整理:131,287千円、5撤去:83,540千円、6指定管理:43,898千円、7備品:7,440千円、8修繕:4,830千円、9その他維持管理:54,258千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	放置禁止区域内の撤去台数(現況変化に起因するため目標値無)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	4172		3000		
活動指標2	指標名	清掃を行った駐輪場数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	292		293		
成果指標1	指標名	都心部(朝)の路上放置台数(現況変化に起因するため目標値無)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	1770		1320		
成果指標2	指標名	駅周辺(朝)の路上放置台数(現況変化に起因するため目標値無)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	3982		2597		
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	令和2年度以降、コロナによる影響で自転車の乗り入れ自体が減少していると考えられるものの、放置禁止区域の指定、放置自転車の撤去、誘導整理など放置自転車対策を進めてきた効果もあり、路上の放置台数が減少している。また、駐輪場内に1週間以上駐車されている長期駐輪自転車について、年2回調査の上4,709台撤去し、駐輪スペースの有効活用を図った。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	駐輪場の適切な維持管理のための業務のほか、誘導整理業務、放置自転車撤去及び長期駐輪対策を行うことで駐輪場の有効活用、安全な歩行空間の確保につながっており、事業規模は適正と考える。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	全市の駐輪場清掃業務の一括発注や、札幌駅周辺の有料駐輪場においては指定管理制度による管理運営を行うことでコストの縮減や作業水準の効率化を図っている。また、シルバー人材センターへ業務を委託することで、高齢者の就労機会創出等を図っている。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	札幌駅周辺有料駐輪場については、利用者アンケート調査で満足度について「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の内「普通以上」と回答した割合は88.6%である。地下鉄やJR駅周辺に放置自転車が集中する傾向にあるが、誘導整理員の配置及び放置禁止区域の拡大を行うことにより、放置自転車の減少が図られている。しかしながら、依然として新規駐輪場の設置や放置自転車に関する要望は寄せられている。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	依然として放置自転車の多い札幌駅周辺において、誘導整理員による自転車利用者への声かけをすることで、自転車の配置の未然防止に努める。また、R4年度より新たな駐輪場完成に合わせて放置禁止区域を拡大したことから、撤去作業水準の維持のほか、撤去作業の効率化を図っていきたい。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	無し			見直し効果額 (前年度)	0千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	駅周辺の自転車乗入れ台数や放置状況に応じて放置自転車の撤去、誘導整理員の配置、駐輪場の長期駐輪自転車撤去を行っていく必要があり、これについて対応している。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 放置禁止区域の拡大や駐輪場の整備に伴い、放置自転車の撤去や駐輪場の維持管理等、事業量増加が見込まれるが、引き続き放置自転車の削減に取り組む。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 放置禁止区域の拡大、撤去の強化などの対策費の増加が見込まれる。			見直し効果額